



新島八重の家・和式もあり



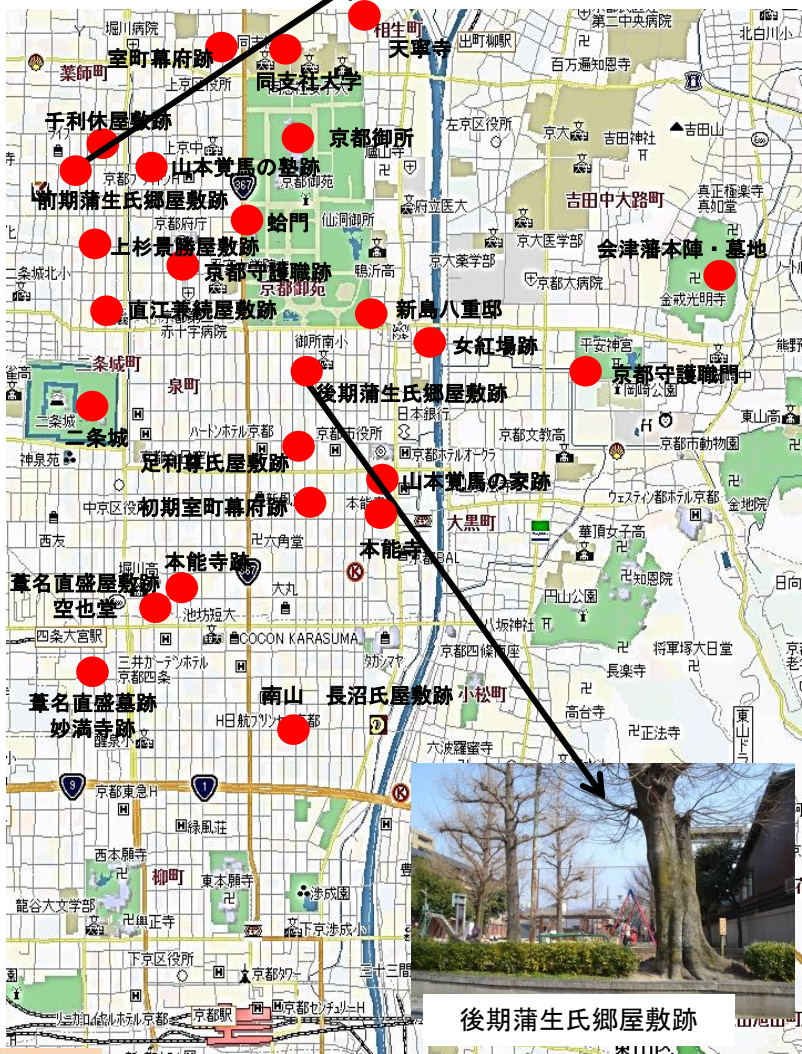
東山から移った京都 天寧寺



大徳寺・蒲生氏郷墓
墓は非公開です。



前期蒲生氏郷屋敷跡・飛騨殿町



後期蒲生氏郷屋敷跡

京都・会津ゆかり

葦名・氏郷・幕末屋敷跡

戦国時代、一国以上を支配していた戦国大名は、自国の領地以外に、京都や伏見にも屋敷を構えていました。また、文禄・慶長の役の時には、北九州の肥前国には、肥前名護屋城をはじめ、陣と呼ぶ城が造られ、蒲生氏郷の陣、上杉景勝、伊達政宗、徳川家康、石田三成などの戦国大名の陣が造られていました。大名以外で例外として、上杉景勝家直江兼統の陣も造られています。

氏郷の屋敷は、『探幽縮図』の「聚楽第行幸図屏風」に「蒲生飛騨殿屋形」とあり、黒門通にあり、近くには、千利休がいました。『氏郷記』文禄三年（一五九四）四月には、柳馬場二条へ新たに屋敷を移しています。

氏郷が十一月二十五日、秀吉を始め八百人を呼

んだ大宴会は、新屋敷でのことで、翌四年（一五九五）二月七日伏見の屋敷で亡くなりました。

葦名時代の屋敷は、永享四年（一四三四）の九代葦名盛政の譲状に「京の四条坊門油小路と相模国三浦郡葦名郷、山口郷、鎌倉の屋敷」とあり、応仁元年（一四六七）に発生した応仁の乱までは屋敷がありました。現在近くには、河東町八葉寺ゆかりの空也堂があります。七代直盛の墓は、かつて京都の屋敷西側の日蓮宗妙満寺にあつて、寺が移転し今では都御所の北西へ移れました。

幕末、明治維新では、会津藩の本陣は、黒谷の金戒光明寺にあり、会津藩の墓地もあります。京都守護職は現在の京都府庁にあり、門は平安神宮西に残っています。若松の東山から移った天寧寺が御所の北東、寺町にあります。新島八重の家は、御所の南東、兄覚馬の家跡は京都市役所の南にあります。

